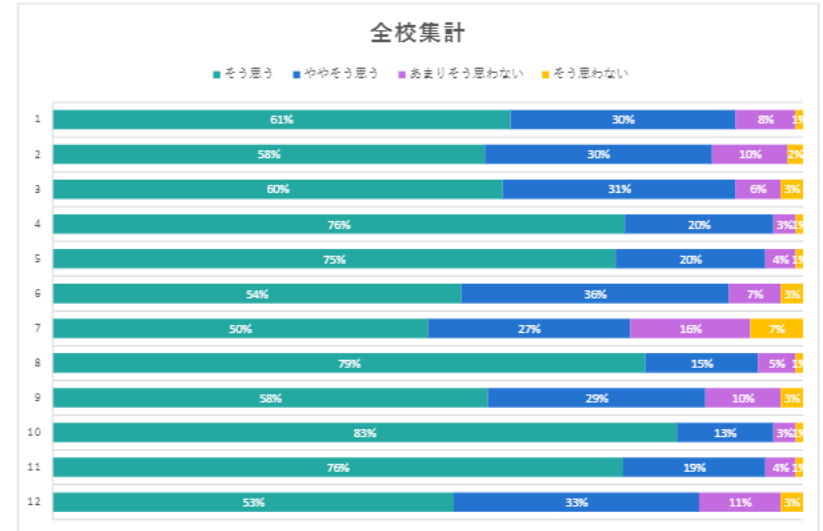


令和5年度 学校評価アンケートの集計結果報告

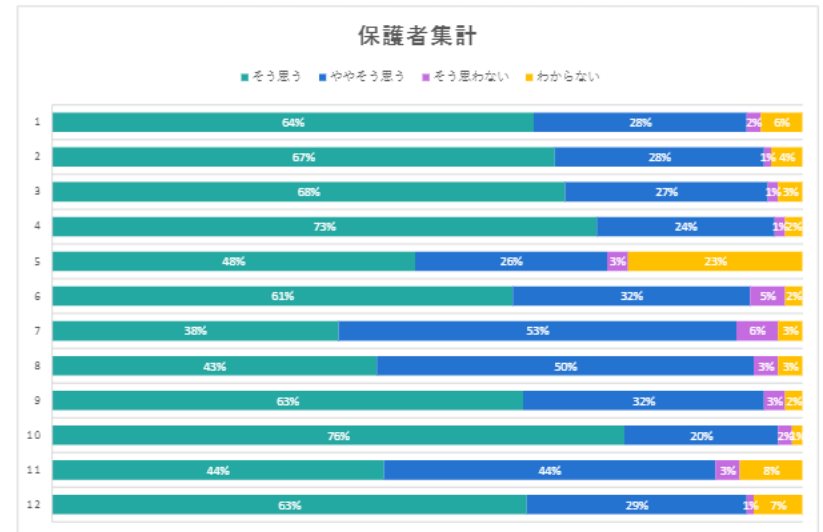
全校集計

No	項目
①	授業では、友達と話し合うことができます。
②	宿題に、進んで取り組んでいます。
③	学校のあいことば「元気いっぱい やさしいいっぱい 笑顔いっぱい 心かがやく笹小キッズ」を目指すことができます。
④	ペア学年活動や運動会、ミニスクールコンサートを通して、友達と協力したり、一生懸命に取り組んだりする良さを感じています。
⑤	自分や友達のよさや大切さを感じています。
⑥	道徳の授業では、友達と考えを伝えあい、自分の生活を振り返ることができています。
⑦	休み時間に、進んで運動しています。
⑧	体育の授業では、楽しみながら進んで運動しています。
⑨	食事のマナーを守り、栄養バランスを考えながら給食を食べています。
⑩	学級活動やにこにこペア学年活動では、友達と活動することは楽しいです。
⑪	友達と安心して学校生活を過ごしています。
⑫	友達のこと困ったことは、話をしたりだれかに相談したりして、解決できています。

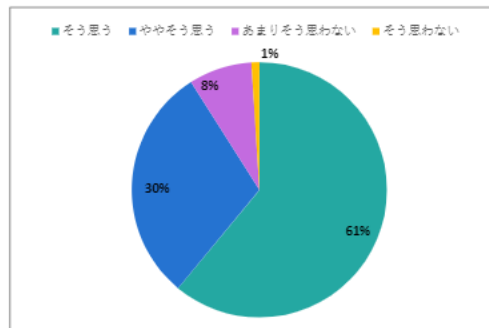


保護者集計 (合計215名)

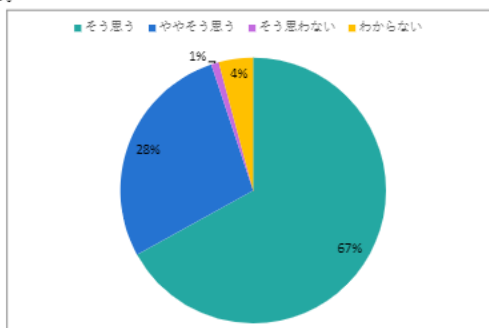
No	項目
①	学校は、学校教育目標や合言葉「元気いっぱい やさしいいっぱい 笑顔いっぱい 心かがやく笹小キッズ」に向けた教育活動を計画・実践している。
②	学校は、子どもが自分の考えを表現したり、話し合ったりする学習をつくりだしている。
③	学校は、体育の授業やロング休み、長縄跳び等で、楽しみながら体力向上に向かう取り組みを行っている。
④	学校は、学級活動やにこにこペア学年活動を通して、子どもが相手意識を持ったり、自信をもって活動したりできるように取り組んでいる。
⑤	学校は、支援が必要な児童に対して、TT指導(級教員による指導)や特別支援教室、個に応じた支援等を行い、学習や生活上の課題に向けて取り組んでいる。
⑥	学校は、子どもや保護者の思いを受け、丁寧に対応している。
⑦	家庭では、子どもが家庭学習に意欲的に取り組めるように、声をかけている。
⑧	家庭では、お父さんがよりよい食生活を実践できるような取り組みを行っている。
⑨	お子さんは、友達と安心して学校生活を過ごしている。
⑩	お子さんは、にこにこペア学年活動、運動会、ミニスクールコンサートなどで、やり遂げた達成感や協力する楽しさなどを感じている。
⑪	お子さんは、友達のこと困ったことは、話をしたりだれかに相談したりして、解決できている。
⑫	お子さんは、自分や友達のよさや大切さを感じている。



① 授業では、友達と話し合うことができます。



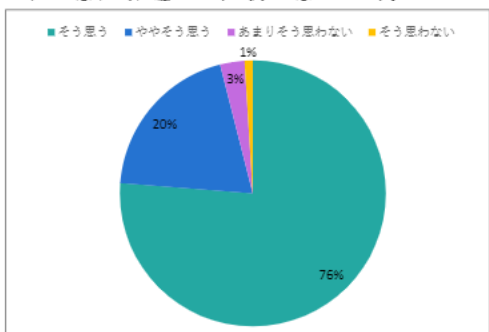
② 学校は、子どもが自分の考えを表現したり、話し合ったりする学習をつくりだしている。



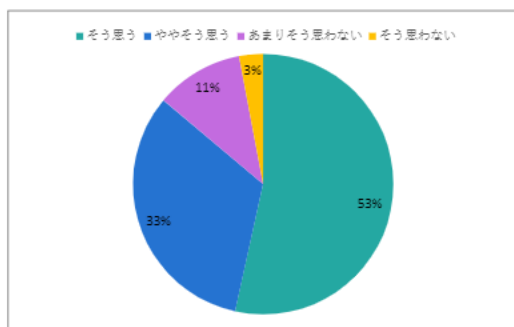
<児童アンケート①・保護者アンケート②より>

「そう思う」「ややそう思う」を合わせて9割を超えているので、全体的に子どもたちは授業中に話し合うことができていると考えられる。今後も、子どもたちが安心して意見を交流できるような授業を継続していく。さらに、子どもたちが話し合いを通して、考えを深めていけるような支援をしていく。

④ ペア学年活動や運動会、ミニスクールコンサートを通して、友達と協力したり、一生懸命に取り組んだりする良さを感じています。



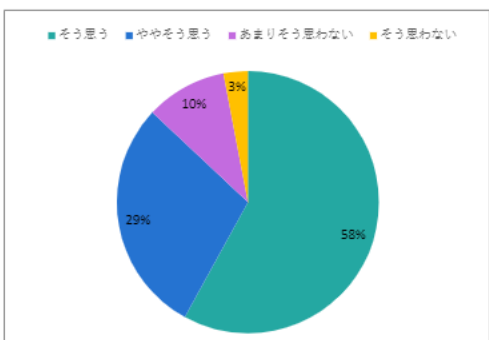
⑩ 友達のこと困ったことは、話をしたりだれかに相談したりして、解決できています。



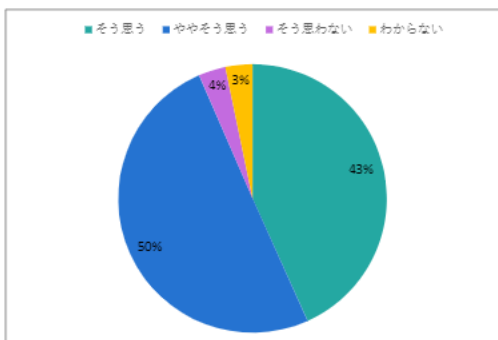
<児童アンケート④⑩・保護者アンケート⑩⑪より>

「ペア学年活動や運動会、ミニスクールコンサートを通して、友達と協力したり、一生懸命に取り組んだりするよさを実感している」では、約96%が肯定的に捉えている。引き続き、児童が活動に見通しをもってゴール(目標)を見据え、達成のために主体的、協働的に取り組めるよう、促していく。一方「困りごとを解決できていますか」では、86%が肯定的な回答となっているが、「そう思わない」と回答した14%の思いを受け止め、よりよい方向へ導いていけるよう、相談しやすい環境づくりやSOSの出し方教育の実施等に取り組んでいく。

⑤ 食事のマナーを守り、栄養バランスを考えながら給食を食べています。



⑧ 家庭では、お子さんがよりよい食生活を実践できるような取り組みを行っている。



<児童アンケート⑧・保護者アンケート⑧より>

食に関する項目では、「そう思う」「ややそう思う」と回答した児童、保護者ともに約9割の結果となっており、全体的に食に関する取り組みができていると考えられる。具体的には、メニューや食材などの紹介やクイズを給食時に放送している。また、給食委員会が主となり、栄養バランスについて考える機会を設けていることも成果と考えられる。今後も継続して取り組んでいく。